

平成30年度ふるさと・きずな維持・再生支援事業【活動成果報告集用原稿】

活動地域	港区・福島県	団体名	特定非営利活動法人 Social Net Project MOVE
事業名	「ふくしまみなと未来塾」2020年へ向けて		

◆団体概要◆

団体名 特定非営利活動法人 Social Net Project MOVE

所在地 東京都港区南青山 1-26-16-501

TEL/FAX 03-5474-7558/03-5474-1461

E-mail for01@themis.ocn.ne.jp

URL <http://www.smartcitymove.com/>

活動分野

保健医療福祉 社会教育 まちづくり 観光振興 農林漁村中山間 文化芸術スポーツ
環境保全 災害救援 地域安全 人権平和 国際協力 男女共同 子どもの健全育成
情報化 科学技術 経済活性化 職業能力雇用 消費者保護 連絡助言援助 その他

◆課題・背景◆

200文字以内 ※極端にオーバーする場合は事務局で編集します

時間経過と共に震災・原子力災害の記憶の風化、関心が薄れています。そうした中、実状を悲観的に捉える視点、楽観視した視点が錯綜しています。それらが情報を一人歩きさせ、疑念や偏見、風評を固定化し、福島の実状から人々を遠ざけているとはいえないでしょうか。しかし、これに翻弄されることなく、厳しい現実に向かい、地域の新生に挑戦し、次世代に地域をつなごうとしている確かな取組が県内随所で結実しつつあります。

◆目的◆

200文字以内 ※極端にオーバーする場合は事務局で編集します

福島県及び県民が地域の再生・新生へ挑戦する様々な分野の取組を、港区を中心とした首都圏住民に伝え、地方モデルの理想ともいえる先進的で、斬新な取組とその志、姿勢を学び、地方（福島）と東京（都市）を越えた共感のつながりを創造。これを農水産業・新エネルギー事業・社会教育・文化事業でそれぞれの地域の次世代へつなぎ、都市と地方が新しく連携した姿を TOKYO2020 の年、全国・世界に発信することを目的に取り組みできました。

◆取組内容・実績◆

1取組 200文字以内で簡潔に、代表的な3取組までを記載

※極端にオーバーする場合は事務局で編集します

<取組1> 200文字以内、代表的な写真1枚

「福島のココロが面白い！」交流学习バスツアー

①開催日：平成30年8月11日（土祝）・12日（日）

②参加者数：107名 内首都圏参加者45名

③開催地：南相馬ソーラーアグリパーク・再生可能エネルギー発電施設・いわき市薄磯集会所・薄磯海岸


④事業内容：再生可能エネルギーワークショップと発電施設見学・生産者との交流学习・いわき市海岸被災学習・子ども伝統芸能体験交流と意見交換会・海遊び交流

写真1




小水力発電体験

<取組2> 200文字以内、代表的な写真1枚

<p>「里山がっこう体験しよう！」日帰り交流ツアー</p> <p>①開催日：平成30年10月28日（日）</p> <p>②開催地：伊達市霊山町 伊達市立大石小学校・NPO法人りょうぜん里山がっこう</p> <p>③参加者数：133名 内首都圏参加者35名</p> <p>④事業内容：伊達市立大石小学校学習発表会交流・りょうぜん里山がっこうでの交流（米粉ピザづくり・ボルダリング・火おこし・草弓・木工遊び体験・意見交流）</p>	<p>写真2</p>  <p>米粉を使ったピザづくり体験</p>
---	---

<取組3> 200文字以内、代表的な写真1枚

<p>「福島の声、響き、願い」音楽交流</p> <p>①開催日：平成30年12月16日（日）</p> <p>②開催地：港区立みなとパーク芝浦リーブラホール</p> <p>③参加者数：226名 内県内参加者102名</p> <p>④事業内容：福島県立安積黎明高校合唱団・国立大学法人東京工業大学附属科学技術高校吹奏楽部・福島県立磐城高校吹奏楽部公演と合同演奏、合同合唱奏・意見交換会「ふくしまみなと未来塾」2020年へ向けて高校生会議</p>	<p>写真3</p>  <p>高校生会議</p>
--	---

◆事業の成果◆ 400文字以内 ※極端にオーバーする場合は事務局で編集します

昨年度事業から規模を拡大しつつ、テーマを自然・環境・文化に絞って実施したことで、港区・首都圏からの参加者に明確に「ふくしまみなと未来塾」の目指す交流事業の姿を理解してもらうことができました。また、アンケート調査結果からも県内団体の協力のおかげで、福島県への理解、共感をより促進することができたと考えます。昨年度の事業成果と相まって、港区・首都圏参加希望者の応募はいずれの事業でも定員の5倍～7倍となり、港区及び近隣区の児童・生徒・保護者、地域関係者に広く知られる活動となりつつあります。さらに、本年度より港区全国連携担当との協力・協働関係が確立。「ふくしまみなと未来塾会議」が定例化しました。さらに、何よりも参加者や協力団体から、継続希望の声だけでなく、提案意見が出るようになり、「よかった！」から「もっとこうしよう、したい！」へ、次年度へ向けた、提案が多数あったことです。

◆今後の展開◆ 200文字以内 ※極端にオーバーする場合は事務局で編集します

本年度事業の成果と課題を踏まえて、TOKYO2020へ1年と迫る次年度事業は、2020「ふくしまみなと未来塾」へ向けたPre事業を実施、実現したいと考えています。平成26年本事業の立案当時から目指している目標実現のため、これまで本事業に関わった地域新生へ挑む県内の人々を広く全国に紹介する出版・WEB発信事業と本年度事業で大きな成果を生んだ音楽文化交流事業・高校生会議をより拡大、発展させます。